

第3期コレンジャーおしまいの始まり

3月9日の終了式の活動では1月にみんなで力を合わせて整備したピオトープを確認しに行きました。その途中にある今にも壊れそうなボロボロの橋を補強しました。このルートはレンジャーが市内小学生の体験学習で利用しています。コレンジャーのおかげで、来年度も安全に君たち後輩の体験を実施することができますよ。ありがとう！

3月イノシシに荒らされず無事でした

4月カエルが鳴き卵も産んでいました！



終了式の最後には、五日市物語の中で萩原タケ役として出演し、現在は一人語りなどの活動をされている杉野明美さんに、宮澤賢治の『虞十(けんじゅう)公園林』を朗読していただきました。この物語は人間の時間を越えて自然を見つめるきっかけになるような物語だと思います。

朗読を終えた明美さんの言葉は「君たちの未来を期待しています！」

20年後を想像する森づくり

2月の大雪の影響で森づくり活動は3月23日に行いました。朝トウキョウサンショウウオのためにひなこが作ってくれた看板を設置したことをみんなに報告しました。



看板のおかげで卵は守られています！
(4月14日撮影)

「君たちが前回やったピオトープは近い未来のためにやったこと。だけど今日は10年後20年後を想像しながら森づくりをします。」隊長のこの一言で今日の活動に意識が集中しました。準備を整え、いざ森へ出発！細い作業道をしばらく歩くと後どれくらい？とコレンジャーが聞きます。「今日やることは何だろう？野生動物のための環境づくりだよ。けものが森で暮らすことができれば人の生活に被害も与えない。だからできるだけ人の生活域から離れた場所に植樹する必要があるんだよ。」そんな話をしながら、目的の場所まで1年間育てた木を持って歩きました。

到着後は早速隊長に木のきり方を教わりながら、自分たちの力で木をきり倒し、植樹場所を作り、20年後の森と自分を想像しながら木を植えました。

木が実をつける時、リスやネズミが実を食べる時、貯食する時、そのどんぐりが新しい芽を出す時、自分たちが植えた木が大きくなって森に暮らす生物の隠れ場所になる時、私の命が終わってもその木が死んでしまっても陽が入った場所にその子孫が芽を出す時…かせちゃんの想像は終わりのない森につながりました。みんなはどんな想像をしていたのだろう？

「木をきることの大変さ、危険さがわかった」「木が倒れた時地面が揺れた」「木をきるために下地が必要だとわかった」「間伐は大事だけど日陰も大事」「きった木を利用したい」「植えた木がどうなっていくのか楽しみ」「何十年後のために、色々なことをやるんだなと思った」というコレンジャーの感想には、本やインターネットでは学べない大切なことで溢れていました。森のつながりを知った1年、そしてそのつながりに仲間入りしたコレンジャーそれぞれの未来が“自然と共に”あることを願って。

1年間共に活動してくれてありがとう！ (かせ)

活動報告書より

今日の感そう。

人間は、自然をこわしてしまっているけど、育てることもできることか
分かった

そして、春



ヒレンジャク。毎年、あきる野ではいくつかの群れで、一時滞在する野鳥です。今年、この美しい鳥を初めて確認したのですが、既に3回も出会うことができました。大幅な移動ルートの変更などは大雪の影響を受けたかも知れません。



(上)数年前に伐採された森で植樹されたヒノキが成長してきました。この様な若い植林では、カモシカ(写真)やニホンジカは快適に生息できます。実は、市内で伐開地などが増えてきたため、近年のシカなどの個体数の急増加とも関係していると考えられます。一方、稀少種であるハヤブサやヨタカ、たくさんの爬虫類や昆虫などの小動物も、この様な開放的な環境を好むため、連続性の高い成長した植林よりも、山間の所々にあれば多様性を高める環境になると見られます。

(下)奥山の流れが緩く浅くなっています。山の保水力や埋まって機能しなくなった砂防等と関係します。近年では、「豊かな流れ」を好むナガレタゴガエルやカジカの数が減っています。



大雪の影響についての3月のレンジャー新聞から、自然は大きく変化しました。たった2ヶ月で約100センチの積雪と厳しい寒さから、新緑と穏やかな日々に変わりました。季節の移り変わりは、なんて素晴らしいことでしょうか。

春になった段階で、自然の忙しさが目立ってきました。芽吹き、開花、繁殖などの時期に入った生き物たちが活発に動きだし、環境問題も発生してしまうくらい混乱します。自然のバランスは非常に敏感で、ある小さな変化でも深刻な問題に繋がってしまうこともあるため、自然の中で行われるドラマの舞台やエピソードを理解するためには、多くの視点が必要です。例えば、現在の外来種問題はとても心配で、その繋がりや被害に目が向きます。以前、考えていなかったことについて考えるようになりました。そして、考えるようになったことで、増加する生き物、逆に減少する生き物や消えて行く自然についていろいろ理解できる様になり、問題の対策のためにも行動する様になりました。

自然の中では晴れた日でも、大雨の日でも、何があっても「命」は変化や進化の流れに乗って明日に向かいます。



(上)畑沿いに、良く見かける被害を受けた農作物などは、放置することで民家近くの哺乳類の数や出没の増加、またはカラスの集まりなどの出来事に繋がり、終わりのない「被害→増加」のサイクルを起こす行為に間違いありません。

(下)里山で増えてゆく外来種(アライグマやハクビシン)などの哺乳類による被害を受けたサンショウオたちの様子。あきる野の東部のトウキョウサンショウオ、ツチガエルなどの両生類の個体群は絶滅する恐れが高まっています。

